



**Hewlett Packard**  
Enterprise

# Gen10/Gen10 Plus SPP 2021.10.0 リリースノート

2021 年 10 月

## 法律および通知情報

© Copyright 2015–2017 Hewlett Packard Enterprise Development LP

### ドキュメント履歴:

リリース日	説明
2021年10月	最終版

# 目次

---

概要 .....	4
変更の概要 .....	4
重要な注意 .....	4
改善点 .....	5
削除されたサポート .....	5
サポートされているオペレーティングシステム .....	5
前提条件 .....	7
コンポーネントの事前要件 .....	7
SUM 事前要件 .....	7
制限事項 .....	7
既知の制限事項 .....	7
ダウンロードおよび展開 .....	9
SPP ダウンロードページ( <a href="http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl">http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl</a> ) .....	9
SPP カスタムダウンロード ( <a href="https://www.hpe.com/servers/spp/custom">https://www.hpe.com/servers/spp/custom</a> ) .....	10
インストール .....	11
インストール手順 .....	11
Linux オペレーティングシステムで SPP を使用するための追加情報 .....	12
VMware オペレーティングシステムで SPP を使用するための追加情報 .....	12
追加のリソース .....	13
ホットフィックス .....	13
SPP サプリメント .....	13
ネットワーク経由でフル SPP ISO からコンポーネントを展開するために PXE サーバーを使用 .....	13
前提条件 .....	14
セットアップ .....	14
GRUB2 の構成 .....	15
ELILO の構成 .....	15
PXELINUX の構成 .....	15
サポートされるネットワークファイルシステムプロトコル .....	17
一般的な略語 .....	18

## 概要

Gen10/Gen10 Plus Service Pack for ProLiant (SPP)は、単一の ISO イメージとして提供される統合されたシステムソフトウェアおよびファームウェアアップデートソリューションです。このソリューションは、展開ツールとして Smart Update Manager (SUM)を使用し、サーバーサポートガイドで定義されている、すべての HPE ProLiant Gen10/Gen10 Plus サーバー上でテスト済みです。

SPP 2021.10.0 以降、2 つの SPP がリリースされます。1 つは Gen9 製品用で、もう 1 つは Gen10/Gen10Plus 製品用です。「Gen10/Gen10Plus」SPP バージョンでは資格確認は不要になりましたが、Gen9 のみ (2021.10.0) および Gen9 / Gen10 / Gen10 Plus SPP バージョン (2021.05.0 以前) では引き続き必要です。

SPP ドキュメントの完全なリストについては、SPP ダウンロードページの [ドキュメントタブ](#) を確認してください。

ドキュメント	説明
リリースノート	この SPP のリリースノートには重要な注意事項と既知の問題が含まれています。
コンポーネントリリースノート	この SPP に含まれている各コンポーネントのリリースノートには、SPP に含まれている各コンポーネントの修正、改善点、および重要な注意事項が含まれています。
コンテンツレポート	この SPP のソフトウェアとファームウェアのリスト(ファイル名とバージョンを含む)。
サーバーサポートガイド	各 HPE サーバーで使用されるソフトウェアとファームウェアのリスト。
OS ガイド	各 SPP に含まれているオペレーティングシステムのサポートのリスト。

## 変更の概要

### 重要な注意

SPP 2021.10.0 以降、2 つの SPP がリリースされています。1 つは Gen9 製品用で、もう 1 つは Gen10 / Gen10Plus 製品用です。

HPE StoreOnce のお客様 – SPP をインストールすると、StoreOnce システムで問題が発生する場合があります。 [HPE サポートセンター](#) にアクセスして、適切な StoreOnce アップデートを見つけてください。

サーバーで必要なアップデートの頻度を低減するために、HPE では SPP のパッケージ化および提供方法を変更しました。SPP には次の 2 種類があります。

- すべての製品サーバー世代 に対するファームウェアとドライバーを含む個々の「**プロダクション SPP**」、および
- 特定のポストプロダクションサーバー世代 に対するファームウェアとドライバーを含む(例、すべての Gen8 サーバーモデルに対するファームウェアとドライバーを含む Gen8 のみのポストプロダクション SPP など)、サーバー世代 に特定の「**ポストプロダクション SPP**」。

2017.04.0 SPP は、G6、G7、および Gen8 サーバープラットフォームのコンポーネントを含む最新のプロダクション SPP です。変更内容について詳しくは、[Reducing Server Updates](#) を参照してください。

**注記:** 2015年11月1日にHewlett-Packard CompanyがHewlett Packard Enterprise CompanyとHP Inc.に分割される前に販売された製品には、現在のモデルとは異なる古い製品名やモデル番号が付けられている可能性があります。

## 改善点

2021.10.0 Gen10/Gen10 Plus SPP プロダクションリリースには、ProLiant および Apollo Gen10、および Gen10 Plus サーバープラットフォームとオプションをサポートするコンポーネントが含まれています。この SPP リリースには、Smart Update Manager (SUM) 8.9.0 および以下のドライバーサポートが含まれています。

- Microsoft Windows Server 2022
- Red Hat Enterprise Linux 8.4
- SUSE Linux Enterprise Server 15 SP3
- vLCM/HSM のサポートを有効にしました。参照してください [有効-vLCM-コンボ](#) SPP を使用して vLCM の目的のイメージを定義する方法については、ドキュメントを参照してください。

このリリースには、Gen10/Gen10 Plus サーバープラットフォームでの VMware ESXi 7.0 U3 のオンラインアップデートのサポートが含まれます。

2021.10.0 SPP リリースは 2021.04.0 Gen10 SPP を置き換えるバージョンです。

ISO 上のコンポーネントの完全なリストについては、[ISO](#) または [SPP ページ](#) ([\[ドキュメント\]タブ](#)) のコンテンツレポートを参照してください。

## 削除されたサポート

- Red Hat Enterprise Linux 7.7
- Red Hat Enterprise Linux 8.1、8.2
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP4
- SUSE Linux Enterprise Server 15 SP0、SP1
- VMware vSphere 7.0U1
- Windows Server 2012 R2

## サポートされているオペレーティングシステム

---

以下のオペレーティングシステムは、システムのソフトウェアおよびファームウェアがサポートされます。

- Microsoft Windows Server 2022
- Microsoft Windows Server 2019 – すべての Edition
- Microsoft Windows Server 2016 – すべての Edition
- Red Hat Enterprise Linux 8.3、8.4
- Red Hat Enterprise Linux 7.8、7.9
- SUSE Linux Enterprise Server 15 SP2、SP3
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP5
- VMware vSphere 6.5 U2、U3

- VMware vSphere 6.7 U2、U3
- VMware vSphere 7.0 U2、U3

#### BladeSystem アダプター(切り捨てられた OS サポート)

新しい OS バージョンのうちの 2 つは、c-ClassBladeSystems プラットフォームの一部のアダプターではサポートされていません。具体的には、RHEL8.4 の新しい OS バージョンと SLES15 SP3 の新しい OS バージョンは、560M、560FLB、650M、および 650FLB アダプターではサポートされていません。

アダプター-SKU の説明	アダプター-SKU 注文番号	アダプターベンダー	サポートされない RHEL バージョン	サポートされる RHEL バージョン	サポートされていない SUSE バージョン	サポートされる SUSE バージョン
HPE Ethernet 10Gb 2 ポート 560M アダプター	665246-B21	Intel	8.4	7.8、7.9、8.3	SLES 15 SP3	SLES 12 SP5 SLES 15 SP2
HPE Ethernet 10Gb 2 ポート 560FLB アダプター	655639-B21	Intel	8.4	7.8、7.9、8.3	SLES 15 SP3	SLES 12 SP5 SLES 15 SP2
HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650M アダプター	700767-B21	Broadcom	8.4	7.8、7.9、8.3	SLES 15 SP3	SLES 12 SP5 SLES 15 SP2
HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650FLB アダプター	700763-B21	Broadcom	8.4	7.8、7.9、8.3	SLES 15 SP3	SLES 12 SP5 SLES 15 SP2

お客様は、これらのアダプターに、サポートされているバージョンの RHEL (7.8、7.9、8.3) およびサポートされているバージョンの SUSE (SLES 12 SP5、SLES 15 SP2) を使用できます。

現在、BladeSystems の 560 および 650 アダプターで RHEL8.4 または SLES15SP3 をサポートする予定またはコミットされた日付はありません。

ProLiant サーバー向けの HPE オペレーティングシステムおよび仮想化ソフトウェアのサポートについては、[OS サポートサイト](#)を参照してください。

# 前提条件

---

## コンポーネントの事前要件

nfc-host-agent コンポーネントの事前要件

nfc-host-agent rpm を正常にインストールするには、オペレーティングシステムディストリビューションの一部である次のライブラリをインストールする必要があります。

- libhugetlbfs.so
- libuuid.so - libuuid-devel は、インストールする必要のあるライブラリです。SuSE Linux Enterprise Server 12 Service Pack 4 および SuSE Linux Enterprise Server 12 Service Pack 5 の場合、これはソフトウェア開発キット(SDK)に含まれています。

NFC エージェントがシームレスに機能するには、ファイアウォールで次のポートを有効にする必要があります。

- RDMA/4420
- tcp/3205
- udp/3206

nvme-cli パッケージはこの rpm の一部であり、プリインストールされている nvme-cli と競合する可能性があるため、この rpm をインストールする前にデフォルトの nvme-cli パッケージをアンインストールすることをお勧めします。

NFC エージェントがシームレスに機能するには、NVMe-Rdma ドライバーをインストールする必要があります。

事前要件に関する情報を確認するには、個々のコンポーネントを調べてください。

## SUM 事前要件

SUM についての最新の事前要件については、SUM ドキュメントページ(<https://www.hpe.com/info/sum-docs>)を参照してください。

# 制限事項

---

## 既知の制限事項

Smart コンポーネントと、この SPP で提供されているバージョンの SUM に関する既知の問題と制限事項は以下のとおりです。完全なリストについては、[SPP ダウンロードページ](#)にアクセスして、“ホットフィックス & アドバイザリ”タブを選択し、“既知の制限事項”を参照してください。この手順は、現在リストされている SPP に使用できます。“現在のプロダクションバージョン”の横にリストされている目的の SPP バージョンを選択し、そのバージョン固有のページを開いてください。

- Unified Extensible Firmware Interface (UEFI)によってアップデート可能なコンポーネントの Integrated Lights-Out (iLO)レポジトリのアップデートは、Smart Update Manager (SUM)の“Reboot”パラメーターが“Never”に設定されている場合はインストールを行いません。詳しくは、この[カスタマーアドバイザリ](#)を参照してください。

- Linux OS で iLO5 アップデートを実行中に、インストール対象としてユーザーに複数の Windows ファームウェアコンポーネントが表示されることがあります。これは、予期された結果です。
- 一部のハードウェアおよびファームウェアについては、それらを検出してアップデートする前にドライバーおよび Enablement Kit またはそのどちらかをインストールする必要があります。インストールに必要なすべてのファームウェアコンポーネントが確実に存在するようにするには、SUM を 2 回実行する必要がある場合もあります。
- SUM を 2 回実行するシナリオは、いくつかあります。SUM では、インストールに必要なハードウェアとファームウェアを検出するドライバーが必要です。インストールに必要なすべてのファームウェアコンポーネントが確実に存在するようにするには、ドライバーが初めてインストールされ、システムが再起動されたら、SUM を再度実行する必要があります。シナリオは、以下のとおりです。
- ネットワークアダプター(NIC)、ホストバスアダプター(HBA)、および iLO については、SUM によって認識されるためにドライバーまたは Enablement Kit をインストールする必要があります。  
Emulex ファイバーチャネルアダプター用の Linux ファームウェアコンポーネントおよび Marvell ファイバーチャネルアダプター用の Linux ファームウェアコンポーネントでは、ターゲット環境に OS インストールメディアから libHBAAPI パッケージがインストールされている必要があります。
- Emulex システムでは、OneCommand Manager をインストールする前にファイバーチャネル Enablement Kit for Emulex HBA をインストールします。OneCommand Manager がシステムにすでにインストールされていて、Enablement Kit がまだインストールされていない場合、OneCommand Manager をアンインストールし、Enablement Kit をインストールしてから、OneCommand Manager を再びインストールしてください。
- SUM を Windows で実行するときに、iLO チャンネルのインターフェイスドライバーがインストールされていない場合、iLO ファームウェアは、「バンドルを選択」ページまたは「コンポーネントを選択」ページ上で、インストールされたバージョンとして「なし」を表示し、ステータスとして「展開の準備ができました。」を表示します。これは、iLO4 および iLO5 のファームウェアに適用されます。ファームウェアのアップデートを試みても、ファームウェアが既に最新の場合は、ファームウェアのアップデートに失敗することがあります。2017.10.0 から 2017.06.1 への iLO のダウングレードはサポートされておらず、そのアップデートは失敗します。
- Linux 上で SUM を使用するとき、インストールを iLO ファームウェアで見ると、オペレーティングシステムから iLO チャンネルインターフェイスドライバーをロードする必要があります。
- 適切なドライバーがインストールされておりすべてのイーサネットポートが起動していない限り、SUM は Broadcom NIC を検出しません。イーサネットポートは、以下のコマンドで起動することができます。

```
# ifup ethx
または
# ifconfig ethx up
```

Broadcom NIC 用のファームウェアをアップデートするには、以下の手順に従ってください。

- SPP にある適切な Windows ドライバーまたは Linux ドライバーをインストールします。
- すべてのイーサネットポートを有効にします
- Broadcom FW アップグレードコンポーネントを実行します
- 次の HPE コンバインドネットワークアダプターでのオペレーティングシステムのサポートが凍結されました。Service Pack for ProLiant 2021.10.0 以降、以下にリストされている新しいオペレーティングシステム用のこれらのアダプター用に、すぐに使用できるドライバーが出荷されたり、オンラインファームウェアフラッシュコンポーネントが提供されたりすることはありません。これらのオペレーティングシステムでファームウェアを更新する唯一の方法は、Service Pack for ProLiant をオフラインモードで起動することです。

## HPE Converged Network Adapter

- HPE CN1200E デュアルポートコンバージドネットワークアダプター
- HPE CN1200E-T デュアルポートコンバージドネットワークアダプター
- HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 556FLR-SFP+アダプター
- HPE FlexFabric 10Gb 2 ポート 556FLR-T アダプター
- HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650FLB アダプター
- HPE FlexFabric 20Gb 2 ポート 650M アダプター

以下に限定されないオペレーティングシステム:

- Red Hat Enterprise Linux 8 Update 4 以降
- SuSE Linux Enterprise Server 15 Service Pack 3 以降
- Microsoft Windows Server 2022 以降
- VMware vSphere 7.0 以降

## ダウンロードおよび展開

SPPはSPPダウンロードページまたはSPPカスタムダウンロードサービスからダウンロードできます。どちらのオプションも、HPEパスポートへのログインとアクティブな保証またはHPEのサポート契約が必要です。

HPEでは、ダウンロードしたファイルの完全性を確認するために、次に挙げるSHA-256チェックサム値で結果を検証するようお勧めしています。

8a26f187f641e0dc4082f270aab0f4cb0ffa36fa152605d42ba6f8e74cef4a2c	SPP2021100.2021_1012.13.iso
63ea3702b0b71ca94e6cf5bf9703a7fe1efd655c2fbf2afeb1d833611e1ab5dd	SPP2021100.2021_1012.13.iso.sha2sum

### [SPP ダウンロードページ](http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl)([http://www.hpe.com/jp/servers/spp\\_dl](http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl))

SPP ダウンロードページを使用すると、HPE サポートセンター経由でダウンロードできます。また、SPP ダウンロードページには次の SPP 固有の情報も含まれます。

- “ホットフィックスおよびアドバイザリ”セクションには、選択した SPP のホットフィックスとカスタマーアドバイザリのリストが表示されます。
- “ドキュメント”セクションには、リリースノート、コンポーネントリリースノート、コンテンツレポート、サーバーサポートガイド、および SPP OS ガイドを含むさまざまな SPP ドキュメントが含まれます。
- SPP カスタムダウンロードサービスへのナビゲーション

## SPP カスタムダウンロード (<https://www.hpe.com/servers/spp/custom>)

SPP カスタムダウンロードでは、使いやすいインターフェイスが提供されるほか、ダウンロード前にフィルター処理/カスタマイズできるため SPP のサイズを小さくすることができます。また、ここでは SPP に加えて関連するサブリメントも簡単にダウンロードできます。

HPE パスポートアカウントを使用すると、有効な保証やサポート契約の必要なしで、Gen10/Gen10 Plus プロダクション SPP をダウンロードできます。

Gen9/Gen10/Gen10 Plus プロダクション SPP およびポストプロダクション SPP をダウンロードするには、関連製品を対象としている有効な保証またはサポート契約がユーザーの HPE サポートセンタープロフィールにリンクされている必要があります。

SPP ダウンロードは、次のようにカスタマイズできます。

- 適切なボタンを選択します
- [Create an SPP Custom Download]タイトルをクリックします(プラス記号タイトル)
- 該当する情報で[Configure Your Bundle]ステップを選択し、[Next: Select Filters]ボタンを押して完了します
- 例: サブリメントのみをダウンロードするには、SPP の選択を解除し、目的のサブリメントのみが選択されていることを確認します。
- 必要に応じてフィルターを選択します(任意のカテゴリ選択は、そのカテゴリのすべてが含まれることではありません)
- [Build]ボタンをクリックします
- 選択されたコンポーネントのプレビューが表示されるので、[Submit Build]ボタンをクリックします
- 適用時にビルドリクエストがキューイングされ、できるだけ早く処理されます
- 選択した場合、ビルドの完了は新しいタイトルまたはメール通知を介して表示されます

**SPP Custom Download**

**Gen10/Gen10 Plus Production**

Gen10 SPP 2021.10.0

Gen10 SPP 2021.04.0

**Gen9 Production**

Gen9 SPP 2021.10.0

**Gen9/Gen10/Gen10 Plus Production**

SPP 2021.05.0

**Post Production**  
(Read more...)

SPP Gen8.1

SPP G7.1

**Create Download**

**Step 1: Configure Your Bundle**

Fields marked with \* are mandatory entries.

Select base packages\*  Gen10 Service Pack for ProLiant 2021.10.0

Bundle Name\*

Version\*

Description\*

Bundle Format  ZIP Package  ISO  Bootable ISO (SUM included)

Include Smart Update Manager (SUM)

Email me when this bundle is created

## インストール

Service Pack for ProLiant を使用して ProLiant サーバーをアップデートする方法は 2 通りあります。それはオンラインモードとオフラインモードです。

### オンラインモード

1. ローカルホストアップデート – ホストされる Windows または Linux オペレーティングシステム上で実行します。
  - 対話式モード – 画面上の指示に従ってファームウェアコンポーネントをアップデートします。  
対話式モードで展開を開始するには、.iso イメージのルートで見つかる launch\_sum.bat (Windows)または launch\_sum.sh (Linux)スクリプトを実行します。
  - 自動モード – ドライバー、ソフトウェア、およびファームウェアコンポーネントはユーザー操作なしでアップデートされます。
2. リモートアップデート – クライアントオペレーティングシステムをリモートからアップデートするために、ホストされる Windows または Linux オペレーティングシステム上で実行します。
  - 対話式モード – 画面上の指示に従ってファームウェアコンポーネントをアップデートします。  
対話式モードで展開を開始するには、ISO のルートで見つかる launch\_sum.bat (Windows)または launch\_sum.sh (Linux)スクリプトをクライアント経由で実行します。

オフラインモード – サーバーは.iso イメージで起動されます。

- Interactive Mode – 画面上の指示に従ってファームウェアコンポーネントをアップデートします
- Automatic mode – ファームウェアコンポーネントがユーザーの操作なしでアップデートされます。Automatic mode は、サーバーを起動するために SPP .iso イメージが使われた場合、デフォルトではメニュー画面で 10 秒経過後、ユーザーの確認なしでファームウェアアップデートを実行します。

## インストール手順

この SPP 内のコンポーネントをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. SPP ダウンロードページ(<https://www.hpe.com/servers/spp/download>)から SPP 2021.10.0.iso ファイルをダウンロードします。
2. ISO 上のデータにアクセスする方法(起動可能 USB キー、マウントした ISO など)を決定します。希望するフォーマットで、ISO を取得するために適切なツールを使用してください。
3. SPP を使用してターゲットへ展開を開始する方法を決定してください – オフラインモードまたはオンラインモード。
  - a オンラインモード – Windows®または Linux ホストのオペレーティングシステム上で起動
  - b オフラインモード – サーバーは SPP ISO から起動(起動可能な ISO の場合のみ)。
    - i Automatic mode – ファームウェアコンポーネントがユーザーの操作なしでアップデートされます。
    - ii Interactive mode – 画面上の指示に従ってファームウェアコンポーネントをアップデートするためにユーザーをガイドします。
4. 展開を開始します。

オンラインモードで展開を開始する方法:

- SPP フォルダから:
  - Windows: launch\_sum.bat

- Linux: ./launch\_sum
- Gen10/Gen10 Plus VMware ホスト上のオンラインアップデートでは、VMware ホスト上に ESXi ソフトウェア用の Agentless Management Service と iSUT がインストールされている必要があります。
- EULA を参照するには、ISO のルートにある README.html を選択します。

詳しくは、SUM ユーザーガイドおよび HPE ProLiant Best Practices Implementation Guide (<https://www.hpe.com/servers/spp/documentation>)を参照してください。

オフラインモードで展開を開始する方法:

- ISO をマウントするか、起動可能な USB キーを使用することを含めてサポートされている方法のいずれかを使用して SPP でサーバーを起動してください。
- Automatic mode または、Interactive mode のいずれかを選択します。
  - Automatic mode を選択すると、ファームウェアはサーバー上で自動的にアップデートされ、以降の操作は不要になります。
  - Interactive mode を選択する場合は、画面の指示に従ってください。
- 画面上のファームウェアのアップデートオプションを選択して SUM を起動します。

## Linux オペレーティングシステムで SPP を使用するための追加情報

最低限の OS をサポートするためにテクニカル例外マトリックスを参照してください:

- Red Hat Enterprise Linux – [Red Hat Enterprise Linux](#)
- SUSE Linux Enterprise Server – [SUSE Linux Enterprise Server](#)

SLES15 ディストリビューションでは、net-tools-deprecated ユーティリティ(arp、ifconfig、netstat、および route)はデフォルトではインストールされていません。SUM RPM を使用する場合は、これらのユーティリティをインストールしてください。これらは <https://software.opensuse.org/package/net-tools-deprecated> で入手できます。

SPP には、単一の ISO イメージ内に Linux ドライバー、エージェントソフトウェア、およびファームウェアが含まれています。また、SDR には、ソフトウェア構成マネージャ(Yum、Zypper、または Apt)で使用可能なソフトウェアレポジトリがあります。

- ドライバーおよびエージェントソフトウェアの場合、システムを次の“[spp](#)”レポジトリに登録してください。
- ファームウェアの場合、システムを次の“[fwpp](#)”レポジトリに登録してください。

## VMware オペレーティングシステムで SPP を使用するための追加情報

SPP は、サポートされる VMware オペレーティングシステムを実行する Gen10/Gen10 Plus システムに、オンラインモードでドライバーおよびファームウェアを展開できます。ドライバーは [Software Delivery Repository – vibsdepot](#) から入手できます。

# 追加のリソース

## ホットフィックス

この SPP のホットフィックスおよびカスタマーアドバイザリは、SPP ダウンロードページ ([http://www.hpe.com/jp/servers/spp\\_dl](http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl)) のホットフィックスおよびアドバイザリタブを選択すると参照できます。カスタマーアドバイザリは、ホットフィックスの、どのコンポーネントをダウンロードして適用するかを判断するために、参照することができます。以下を選択すると、個別のホットフィックスをダウンロードできます。

1. 関連したダウンロード可能なコンポーネントのリストを展開するためにホットフィックスのアドバイザリの左側にあるグレーの展開ボタン(+).
2. 詳細とダウンロードページを表示する対象となるコンポーネントのタイトル。

この SPP に適用可能なすべてのホットフィックスは、[SPP カスタムダウンロード](#) ページで “SPP + Supplements” を選択してダウンロードできます。ホットフィックスのみをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- “プラス記号” を選択します
- SPP の選択を解除し、ホットフィックスサブリメントバンドルのみが選択されていることを確認します。
- 名前、バージョン、説明、および形式を指定し、必要に応じてカスタマイズに進みます。

## SPP サプリメント

サプリメントは SPP の間にリリースされているファームウェア、ドライバー、および/またはアプリケーションを含むアドオンバンドルです。サプリメントの内容に Linux コンポーネントが含まれる場合、コンポーネントは [SDR](#) でも利用可能です。サプリメント内のコンポーネントが、SPP の次のリリースに組み込まれます。

- SPP サプリメントは、SPP ダウンロードページ ([http://www.hpe.com/jp/servers/spp\\_dl](http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl)) からダウンロードすることが可能です。
- リリースノートは [SPP ダウンロード](#) ページの “ドキュメント” タブ上に見つけることができます。

**OS サプリメント:** OS サプリメントは、ソフトウェアおよび/またはファームウェアコンポーネントを含むバンドルです。これは、新しいオペレーティングシステムのアップデートのサポートが含まれますが、SPP のコンポーネントで動作します。サプリメントは、必要なときに HPE がドライバーのサポートを提供することができるため、ユーザーは完全な SPP が利用可能になることを待つ必要がなくなります。OS サプリメントのためのサポートは、対応する SPP のサポート期間の一部として含まれています。

## ネットワーク経由でフル SPP ISO からコンポーネントを展開するために PXE サーバーを使用

ネットワーク経由でフル SPP ISO からコンポーネントを展開するために PXE サーバーを使用するには、これらの手順に従ってください。

 メニューシステムを ‘pxe’ サーバーで使用できるよう構成するために必要なファイルは、フル SPP ISO の PXE というディレクトリにあります。

## 前提条件

nfc-host-agent コンポーネントの事前要件

nfc-host-agent rpm を正常にインストールするには、オペレーティングシステムディストリビューションの一部である次のライブラリをインストールする必要があります。

- libhugetlbfs.so
- libuuid.so - libuuid-devel は、インストールする必要があるライブラリです。SuSE Linux Enterprise Server 12 Service Pack 4 および SuSE Linux Enterprise Server 12 Service Pack 5 の場合、これはソフトウェア開発キット (SDK) に含まれています。

NFC エージェントがシームレスに機能するには、ファイアウォールで次のポートを有効にする必要があります。

- RDMA/4420
- tcp/3205
- udp/3206

nvme-cli パッケージはこの rpm の一部であり、プリインストールされている nvme-cli と競合する可能性があるため、この rpm をインストールする前にデフォルトの nvme-cli パッケージをアンインストールすることをお勧めします。

NFC エージェントがシームレスに機能するには、NVMe-Rdma ドライバーをインストールする必要があります。

Linux、Microsoft Windows Server、または VMware オペレーティングシステムが実行されている任意の HPE ProLiant Gen10/Gen10 Plus サーバー上で、ファームウェアアップデートの実行前に推奨されるドライバー (アウトオブボックス) がインストールされ、ロードされていない場合に、Open ネットワークアダプターのいずれかでファームウェアアップデートが完了しない可能性があります。

以下は、構成を行う前に必要です。

- ユーザーは、PXE および TFTP についての十分な知識を持っている必要がある。
- DHCP サーバーを使用するネットワーク。
- DHCP サーバーと同じネットワーク上に TFTP サーバーが構成されている。
- ISO イメージをホスティングしているネットワークファイルサーバーに PXE ブートシステムからアクセスできる。
- PXELINUX (<https://syslinux.zytor.com/wiki/index.php/PXELINUX>) (レガシーブートモードの場合) または GRUB2 (<https://www.gnu.org/software/grub/>) (UEFI およびレガシーブートモードの場合)

Linux TFTP サーバーおよび TFTP パッケージを使用していることを前提としています (<https://www.kernel.org/pub/software/network/tftp/>)。他の TFTP サーバーでは、同様に動作する必要があります。

## セットアップ

構成を続行する前に、TFTP サーバーおよび PXELINUX または GRUB2 の構成が適切にセットアップおよび構成されていることを確認してください。ELILO (<https://sourceforge.net/projects/elilo/files/>) が使用される場合もあり

ます。GRUB2 は、UEFI ブートモード、レガシーブートモード、またはレガシと UEFI ブートモードの両方のサポートが必要な混在環境で推奨されています。

SPP 用の PXE ブートをセットアップするには、以下の手順に従ってください。

1. ネットワークファイルシステムに SPP の ISO イメージをコピーして、その位置を記録してください。NFS と Windows®ファイル共有および HTTP 接続がサポートされています。
2. この例では、ISO イメージへの次の NFS パスを使用します。  
192.168.0.99/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso。続行する前に、アクセス可能であることを確認するため、ネットワークファイルシステムをテストしてください。
3. ISO イメージを CD に焼く、ISO イメージをマウントする、あるいはサードパーティのツールを使用して展開のいずれかによって、ISO イメージの /pxe ディレクトリにアクセスする必要があります。
4. TFTP ソフトウェアでアクセスできるように、TFTP サーバーに ISO イメージの /pxe ディレクトリからすべてのファイルをコピーしてください。/pxe/README.txt ファイルで重要な手順および情報を参照してください(レガシーブートモード PXELINUX 構成の場合)。

## GRUB2 の構成

GRUB2 を構成するには、以下の手順に従ってください。

1. コマンド `grub2-mknetdir --net-directory=DIR`(DIR は TFTP サーバーのルート)を実行します。
2. 上記の `grub2-mknetdir` コマンドの役立つ出力を使用して、DHCP を構成します(UEFI ブートモードの場合は `arch = 00:07`、レガシーブートモードの場合は `arch = 00:00`)。
3. TFTP サーバー上の `grub.cfg` ファイルを編集して、SPP ISO /pxe ディレクトリから TFTP サーバーにコピーされた `kernel vmlinuz` イメージファイルと初期 `ramdisk initrd.img` イメージファイルへの適切なパスを設定します。

## ELILO の構成

ELILO を構成するには、以下の手順に従ってください。

1. TFTP サーバー上に `bootx64.efi`、`elilomenu.msg`、および `elilo.conf` を含む EFI フォルダを追加します。
2. `pxelinux.cfg` の構成時と同様に、`elilo.conf` に詳細を追加します(下記を参照)。
3. 下記のように、DHCP 構成を変更します。

```
if option arch = 00:07 {
    filename "pxelinux/bootx64.efi";
} else {
    filename "pxelinux.0";
}
```

## PXELINUX の構成

PXELINUX を構成するには、以下の手順に従ってください。

1. ISO イメージの/system/ディレクトリの isolinux.cfg ファイルを参考にし、PXELINUX 構成ファイルに、isolinux.cfg ファイルに記述されている内容をコピーしてください。このファイル全体を含める必要はありません。

#### label sos

```
MENU LABEL Automatic Firmware Update Version 2019.09.0  
kernel vmlinuz  
append initrd=initrd.img media=cdrom root=/dev/ram0 splash quiet hp_fibre cdcache showopts  
TYPE=AUTOMATIC AUTOPOWEROFFONSUCCESS=no AUTOREBOOTONSUCCESS=yes
```

#### label vsos

```
MENU LABEL Interactive Firmware Update Version 2019.09.0  
kernel vmlinuz  
append initrd=initrd.img media=cdrom root=/dev/ram0 splash quiet hp_fibre cdcache showopts  
TYPE=MANUAL AUTOPOWEROFFONSUCCESS=no
```

#### label sos\_poweroff

```
MENU HIDE Automatic & POWEROFF Firmware Update Version 2019.09.0  
kernel vmlinuz  
append initrd=initrd.img media=cdrom root=/dev/ram0 splash quiet hp_fibre cdcache showopts  
TYPE=AUTOMATIC hp_poweroff
```

 TFTP サーバー上のファイルのパスは、vmlinuz および initrd.img です。これらは、TFTP サーバー上のディレクトリまたは命名規則を含めるように変更する必要があります。

2. append の行で“media=cdrom”を“media=net”に置き換えます。
3. ISO イメージパスを指定します。PXE ブートしたサーバーが ISO イメージを検出するために、PXELINUX 構成ファイルの append の行に ISO イメージのパスを追加する必要があります。以下の引数を追加します。

```
iso1=nfs://192.168.0.99/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso
```

```
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

iso1 パラメーターは、PXE で起動された SPP が ISO イメージにアクセスできるようにします。iso1mnt パラメーターは、PXE ブートされた SPP に iso1 イメージをどこにマウントすべきか伝えます。

最終的な構成ファイルは、以下の例と同じようにする必要があります。

### label sos

```
MENU LABEL Automatic Firmware Update Version 2019.09.0  
kernel vmlinuz  
  
append initrd=initrd.img media=net root=/dev/ram0 splash quiet hp_fibre showopts  
TYPE=AUTOMATIC AUTOPOWEROFFONSUCCESS=no AUTOREBOOTONSUCCESS=yes  
iso1=nfs://192.168.0.99:/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso  
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

### label vsos

```
MENU LABEL Interactive Firmware Update Version 2019.09.0  
kernel vmlinuz  
  
append initrd=initrd.img media=net root=/dev/ram0 splash quiet hp_fibre showopts  
TYPE=MANUAL AUTOPOWEROFFONSUCCESS=no iso1=nfs://  
192.168.0.99:/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso  
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

### label sos\_poweroff

```
MENU HIDE Automatic & POWEROFF Firmware Update Version 2019.09.0  
kernel vmlinuz  
  
append initrd=initrd.img media=net root=/dev/ram0 splash quiet hp_fibre showopts  
TYPE=AUTOMATIC hp_poweroff  
iso1=nfs://192.168.0.99:/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso  
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

追加の iso#および iso#mnt の引数を指定することにより、ISO イメージを追加できます。たとえば、  
iso2=/path/to/iso2.iso iso2mnt=/mnt/iso2.。

## サポートされるネットワークファイルシステムプロトコル

以下のネットワークファイルシステムプロトコルは、PXE ブートで使用する場合にサポートされます。

### ***NFS:***

```
iso1=nfs://192.168.0.99/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso  
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

***NFS ボリュームは、以下のオプションでマウントされます。***

- -o ro
- nolock

マウントオプションに `iso#opts` パラメーターを明示的につけることも可能です

```
iso1opts="rsiz=32768,ro,nolock"
```

**Windows@オペレーティングシステム:**

```
iso1=cifs://192.168.0.99/share/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso
```

```
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

**ログイン認証が必要な Windows@オペレーティングシステム:**

```
iso1=cifs://user:password@192.168.0.99/share/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso
```

```
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

**HTTP:**

```
iso1=http://192.168.0.99/path/to/spp/image/(SPPfilename).iso
```

```
iso1mnt=/mnt/bootdevice
```

これらの手順が完了したら、SPP のコンポーネントは、PXE 起動機能を使用して、展開することが可能になります。

## 一般的な略語

略語	名前
AMS	Agentless Management Service
CNA	Converged Network Adapter
CNU	Converged Network Utility
HBA	Host Bus Adapter
iLO	Integrated Lights-Out
MSB	Maintenance Supplement Bundle
OA	Onboard Administrator
RHEL	Red Hat Enterprise Linux
SIM	Systems Insight Manager
SLES	SUSE Linux Enterprise Server
SPP	Service Pack for ProLiant
SUT	Smart Update Tool
SUM	Smart Update Manager
UEFI	Unified Extensible Firmware Interface